

Aコース [大教室・131教室・3Fトイレ・教務部]

利用しやすいところ

バリアになっているところ

【車いす】

両開きドアが重く、自力で開けるときは力を入れる必要がある

6Fエレベーター前の幅が狭く、教室の出入口は混雑しやすい

車いす用の机が左側最前列のみで座席が固定されている

通路の傾斜が急で狭いため、通路間での小回りは難しい

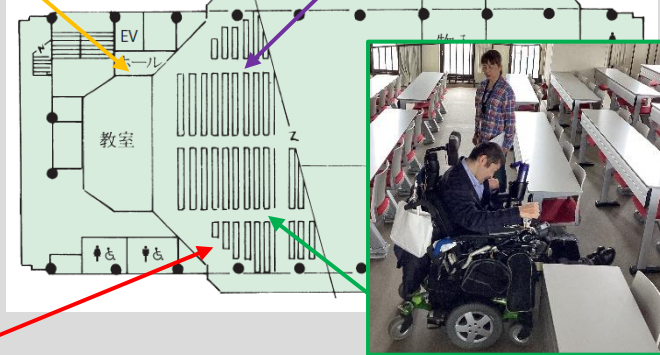
通路の段差がないため、前方・後方への移動が容易である



大教室



一号館 6階



【聴覚障がい】

教員の口の動きが見える座席を探す必要がある（座席の固定化）

Wi-Fiが切れやすく、音声認識ソフトが機能しない場合がある

広々とした教室は雑音などで音が散りやすいため、聞き取りにくい

【非常時】

非常用階段避難車（エクセルチェア）が設置されている

トイレ使用中に災害が発生した場合の避難方法が共有されていない

1号館 3Fトイレ

【視覚障がい】

ドアに点字での案内があり、設備の位置を把握することができる

【聴覚障がい】

非常時、トイレ内では放送が聞こえず、逃げ遅れる可能性がある

【車いす】

可動式のU字型手すりとI字型手すりが設置されている

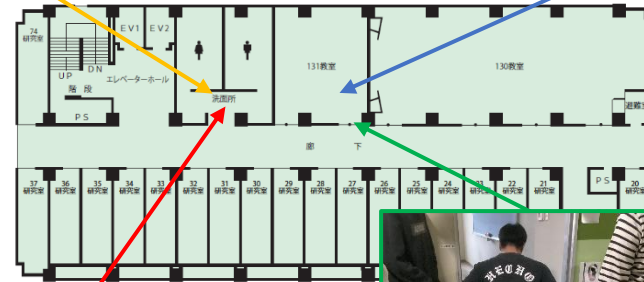
トイレの前で並行に向きを変える必要がない
⇒車いすを便座の横に置き、立ち上がりやすく自力で移乗できる

引き戸のブレーキが利かないため、早めに入出入りする必要がある

手動レバーの位置が遠く、車いすの状態では腕を伸ばす必要がある



3階



131教室

【車いす】

教室の入り口は90cmで、車いすで通行することは可能だが、人とすれ違うためのゆとりはない

車いす用の机が教室内に設置されていないため、車いすから椅子へ移乗しなければならない

通路の幅は80cmで、車いすでの通行は可能だが、転回は難しい
⇒最前列の座席が固定される



教務部

【車いす】

証明書発行機のお金の投入口の高さがちょうど良い

チェアキャスター（各3脚）があるため、自在に車いすのためのゆとりを作ることができる

カウンターの高さが低めで、車いすの状態でも対面できる

カウンターの足元の奥行きが狭いため、車いすでは腕を伸ばした状態で書類を作成することになる

【視覚障がい】

証紙発行機のボタンが、暖色系パステルカラー2色のみで見にくい

【聴覚障がい】

教職員に相談をするための筆談ボードをカウンターに備えてほしい

1-2号館 エレベーター

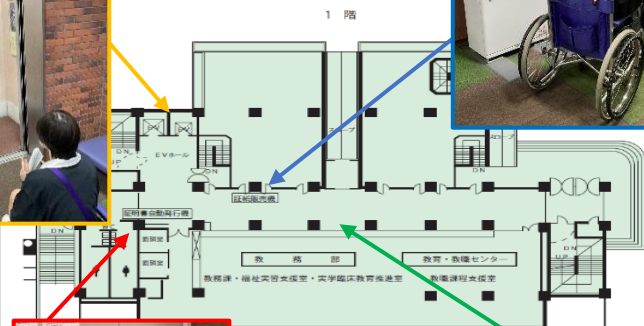
【車いす】

ドアの正面に鏡があり、鏡越しにドアの開閉やフロアの状況を確認することができる

2台とも、フロア内に車いす利用者1人は入ることができる

エレベーターの奥にあるボタンには「開」がない

右側のエレベーターは、左側のものよりも狭く、方向転換は難しい



1階

